

3 水を大切に使う知恵

～水の循環エコシステム「かばた」～



前田 典子
MAEDA Noriko

針江生水の郷委員会

何気ない日常の暮らしの中にあった「かばた文化」。その価値を周りの人たちから教えられた針江の人たちは、水との暮らしのあり方を見つめることで、水や水が育むものの大切さに気づき、「かばた」とともにある暮らしを世界に発信している。

湧水の郷「針江」

滋賀県高島市、琵琶湖の湖西地方となる針江の春は、比良山系の山雪が融け消える頃に暖かな春の陽ざしを浴びる。瑠璃色のさざ波に水鳥が羽ばたき、湖岸を歩けばすべての生き物の息吹を感じられる。私たちの住むこの町には、唱歌『春の小川』のように、未だ日本の原風景が残っている。

集落を流れる針江大川は、きれいな湧水が滔々と流れ、琵琶湖へと注ぐ。針江の上下水道はほぼ完備しているが、集落の110軒余りの家では「かばた（川端）」と呼ばれる自家湧水による生活用水システムや、川底から自噴している恵みの湧水を使っている。私たちはこの湧水を「生まれる水・生水」と呼び、まろやかなおいしい軟水を生活用水として昔から大切に利用している。伏流水「生水」が各家の「かばた」から流れ出て集落の水路を

巡り、針江大川に流れ込む。昔の台所が最近ではエコキッチンシステム「かばた」と称され、「かばた文化」が人と人、人と自然、人と生き物とのつながりを持ち、重要なキーワードとなっている。

比良山系から様々な川が流れ込む高島市は、琵琶湖の水量の38%を供給している。針江は、その川の一つとなる大きな安曇川の扇状地の北部に在り、伏流水が豊富に湧き出し、冬は積雪の多い地域でもある。

生活の中に息づく「かばた文化」

琵琶湖は日本最大の貯水量をもち、その水は瀬田川・宇治川・淀川と名前を変えて大阪湾へと流れ出る。川水は流域の上水道として利用され、1,450万人の水瓶としての機能を担っている。また、魚類等50種類以上の固有種が生息する。



写真1 水路の見学



写真2 川遊び



写真3 魚つかみ

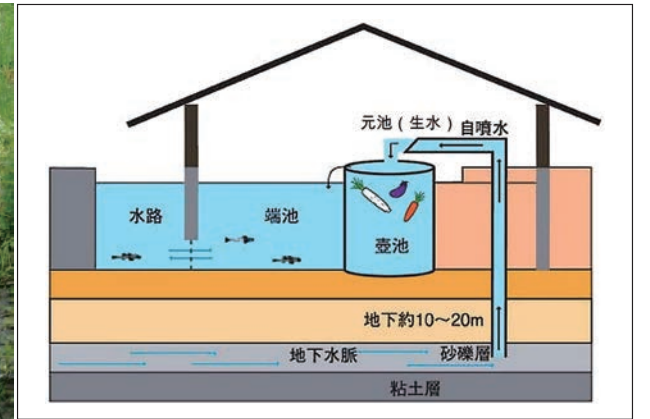


図1 かばたの仕組み

かつて日本のどこにでもあった「春の小川」は、高度成長と共に生活雑排水や産業排水が流れ込み、山林は無防備に伐採され、気がつけば自然破壊と水質汚染に悩まされた。針江大川も上下水道が整備されていない頃は生活雑排水が流れ込んでいたが、それでも昔ながらに「かばた」を使う事で人々は、「上から流れ来る水は下へと流れる。当然汚いものを流すと下流に汚いものが流れ着く。水は水路を通して隣家の『かばた』に行くのだから、上の人には下にいる人の事を思い、汚した水を流してはいけない」。上の「かばた」は思いやりといたわりの水、下の「かばた」は安心と信頼の水と、無意識のままに構造が壊れることはなかった。水の大切さは常々から知らされているのだ。

現在、生活雑排水は下水道に流れ、「かばた」で自噴する純粋な酸素の多い湧水と雨水が地区の水路を巡り、以前よりきれいな水が琵琶湖に流れ、生態系にも良い環境をつくりだしている。

「かばた」の大切さを学ぶ

「かばた」が世界に発信されたのが平成16年1月放送のNHKのハイビジョンスペシャル番組『映像詩 里山～命めぐる水辺』（撮影監修は写真家の今森光彦）。水辺の四季折々を舞台にした美しい映像がきっかけで、「かばた文化」に興味をもった多くの人々が国内外から訪れるようになった。「かばた」の存在を意識せず普通に生活を営んでいた私たちは、この状況に驚きと戸惑いを感じた。訪れる人々の路上駐車が増え、見知らぬ人へのぞかれているような不安感がつのり、誰かが安全管理をしないとイケない状況となった。そこで「針江生水の郷委員会」を立ち上げ、かばたを見学に来訪する人々の案内をすることとなった。

訪れる人から「各家に湧水が自噴していること自体

が凄い。水は大切なもの。かばた文化を大事に守ってください」と言われたことで、後世に残していく事の必要性を感じるようになった。

針江生水の郷の活動が認められ、平成18年に「豊かな村づくり」農林水産大臣賞を受賞。平成20年に「平成の名水百選」に選定。平成21年に中学校道徳の教材本に『「川端」のある暮らし』として掲載。平成22年に国の重要文化的景観「高島市針江・霜降の水辺景観」に選定。平成23年に「第4回淡海の川づくりフォーラム」グランプリ受賞。外国向けの政府発行機関紙『Highlighting Japan』に「水の宝物のお裾分け」として英語で掲載。平成25年には環境省の「エコツーリズム大賞」に選ばれる。また、針江生水の郷委員会はフランス・中国・台湾・韓国・イギリスからのTV取材や小・中・高・大学の体験学習の受入など、国内外から訪れる人々の案内を行っている。

「かばた」は水を循環させる知恵

「かばた」は、外かばた（家の外）と内かばた（家の中）がある。いずれの場合も地面に鉄管を打ちこむと地下10～20mから「生水」が自噴してくる。水温は年間通じて約13℃で、夏は冷たく冬は暖かい。

元池は生水が湧き出るところで、その生水が壺池に溜られ、そこで下洗った野菜や果物を浸けたり、食器を洗ったりする。夏でも麦茶を沸かしたやかん・まるごとスイカ・夏野菜・ビールなどを浸けると10分もあれば冷える。次の端池では、野菜に付いた土を洗い落とし、ご飯粒・食べかす・汚れた鍋を浸け置くと、魚（主に鯉）が食べてきれいにしてくれる。鯉は水路にも放しているが、鑑賞用ではなく、水の浄化に一役かってくれる大切な家族の一員である。

「かばた」からきれいになって流れ出た水は、水路を



写真4 内かばた



写真5 外かばた



写真6 壺池



写真7 針江大川



写真8 梅花藻

巡って針江大川から琵琶湖に注ぎ大海へ流れる。湖や海から蒸発した水は雲となり、やがて雨や雪となって比良山系に降り、地下に浸透し長い道のりを経て再び湧水として「かばた」へ辿りつく。これが究極の循環エコシステム「かばた」である。

「かばた」は地域によって名称は違えど、ひと昔ほど前には日本のあちこちで見かけた光景であったはずだ。私たちの「かばた」は自然の猛威に苛まれたり、都市計画で存続が危ぶまれたりしたが、止まることを知らない湧水をわざわざ止める必要はない。自然の恵みに逆らわず、山から里へ、私たちに水を供給してくれるこんな有り難いことはない。それによって生き物全てが良い環境に保たれている。「かばた」の生水は大切に神聖なものとして、年2回、山の神と里の神に五穀豊穡と水に感謝する慣わし「たなかみさん（田の神さん）」を祀り、崇めている。

「かばた」の水を大切にしたい

針江大川の水は、護岸や川底からも「生水」が湧き出ているため一年中きれいさが保たれている。川底には梅花藻が繁殖し、ニゴイ・アユ・ハヤ・ビワマスが遡上する。夏には、時間を忘れるほど川下りや魚つかみに没頭

する子どもたちの格好の遊び場となる。もちろん蛭も見られる。

針江大川をきれいに保ち、ひいては琵琶湖の環境を保全するために様々な活動を行っている。その一つとして、昔から年4回住民総出で、針江大川の藻刈り清掃を行っている。これにより魚や昆虫、鳥たちにとってもよい環境をつくっている。

琵琶湖岸に生育しているヨシは、琵琶湖の水の浄化と魚のゆりかごにもなる大切なものであり、その保全のため、12月にヨシ刈りをし、2月にヨシを燃やして新芽を促している。春には、湖岸一帯に黄緑色のノウルシも見られ、琵琶湖一の群生地となっている。

農薬を含む農業廃水を琵琶湖に流してダメージを与えた反省から、有機農法に力を入れている。有機農法田に魚道を作ると、田植えの後にナマズが水田に遡上して来る。ナマズの雌に雄が巻き付いて産卵し、その後、育った稚魚が水路を下り琵琶湖に戻って行く。有機農法田の土を掘り返すと、ミミズや蛙などの生き物が多く見受けられる。それらを食べにサギが集まって来る。成長した稲にはヤゴの抜け殻が多く、冬の間水田に水をはるとコハクチョウも飛来する。そして絶滅危惧種のスジマドジョウ、ナゴヤダルマガエルも沢山育っている。



写真9 琵琶湖畔ヨシ原



写真10 藻刈り清掃



写真11 ノウルシ群生地



写真12 板の苗木

人の手が加わることで、生き物たちの生育場所ができ、水に関わる多様な生き物を育てることができる。人と生き物を潤す環境づくりを進めていくことで、琵琶湖の環境保全につながると考えて続けている。

「かばた」を守ることが水を守ること

私たちに命の水を与えてくれる「生水」が、永久に枯れることなく湧くようにと願い、水源の保全活動として「みどりのダムづくり」をしている。針江大川の藻刈り清掃の時にた藻を捨てた田に、板の苗木を植え育て、水の恩恵を受けている水源の山に戻した。それは500年後の大き木を夢見て、山から里へ流れ来る「生水」に感謝と祈りを込めた里帰り植樹である。500年の歳月をかけて育った大き木がむやみに切り倒されているのは非常に残念であり、植樹も大切な活動であると考えている。

水の惑星と言われている地球上には水が溢れていると思いがちであるが、9割以上が海水で、実際にはほとんどが飲み水に適さないという。地球温暖化や家畜の

放牧による砂漠化が進む国や、水資源があっても適切に使うための水路や浄化設備などが整わず、飲み水として使用できない国もある。水辺空間の再生が世界に広まることによって、水資源の確保や水環境の重要性を、真剣に考える時代にきている。

そんな重要問題を世界が掲げている中、皮肉にもここ針江には滾々と「生水」が湧き出ている。私たちにできる事は、針江地区の一人ひとりが持続可能な自然のサイクルに関わり、生き物たちと共生する里山を守ること、そして先人が築き上げた理にかなった知恵「かばた文化」を守り伝え続けることである。

＜現地見学に際して＞

見学には各家の敷地に立ち入るため事前予約が必要。針江生水の郷委員会 (<http://www.hariekabata.com>) (滋賀県高島市新旭町針江372 駐車場有) TEL: 0740-25-6566 (10～16時、冬季15時)